熊本放送

活動名	RKK “一步にエール” お話し会
実施期間	令和6年11月～令和7年1月
実施回数	会場3回（うちオンライン同時開催1回）
配信期間	令和6年11月～令和7年1月
配信作品数	2本

【事業実施の成果・課題】

講師となったアナウンサーたちが慣れてきたこともあり、読み聞かせや子どもたちに向けたレクリエーションなども昨年度よりスムーズに行えた印象があり、子どもたちの反応や会場の盛り上がりも倍増したように思う。また、今年度、お話し会を実施した会場からは、「来年度以降も定例化してもらえないだろうか」「授業に用いている作品や子どもたちが図書室で読んでいる作品を読み聞かせしてもらえないだろうか」などの提案もいただき、好評を得たという手応えも感じられた。

一方で、実施した会場が熊本市内や熊本市の近隣自治体に留まっていて、熊本県全域へと広げていきたい。年間の実施件数も増やしていきたいという思いがある。

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

<空港保育園担当・平岡アナウンサー>

歌での出迎えが嬉しかった。子どもたちが真剣に聞き入ってくれたことが嬉しく、日頃の業務の励みになった。

<熊大附属特別支援小学部担当・福居アナウンサー>

ページをめくる度に表情が変わるのを見て取れたし、反応が返ってくることが双方向のやり取りをしているように感じられた。読み聞かせというと一方的なイメージを持っていたが、「お話し会」という印象を持った。また、言葉のアクセントのレクリエーションでは、「くも（雲、蜘蛛）」の違いを伝えるにはどうするか尋ねると「スパイダー」という英語で答えが返ってきたことに驚かされた。

【教諭・保育士・子どもたち・視聴者などの感想】

<空港保育園教諭>

年に一度の恒例行事にしたいし、系列の園でも実施して欲しい。

<熊大附属特別支援小学部教諭>

去年に続いての実施に感謝。中学部でも朗読会を、そして高等部ではコミュニケーションに関する特別授業などもお願いできないものだろうかと思う。

<子育て応援プロジェクトの参加者>

「はやくちよこれいと」は面白いし、絵もかわいいし、我が家でも子どもに読み聞かせをしたいと思った。

<熊大附属特別支援小学部児童>

- ・「めっきらもっきら どおん どん」に出てくるオバケたちが可愛かった。
- ・「はな（花・鼻）」のアクセントの違いの話が面白かった。